

日刊 労働千葉

86. 9. 5

No. 2343

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

分割・民営化絶対反対の旗を高く掲げ、三里塚ノ下を軸に勝利へあらゆる力を総結集して反撃に待てよう

大 六 五 三

われわれは、一九八六年八月三十一日〜九月一日、九十九里の地において第十一回定期大会を開催し、国鉄分割・民営化阻止、十万人首切り粉碎へ向けて闘う方針を満場一致決定した。

われわれは、昨年大会以降、組織の総力をあげて二波のストライキを闘い抜き、国鉄分割・民営化攻撃のドス黒い陰謀を暴き出し、大量不当処分には屈しない国鉄労働者の魂を示しぬき反撃の突破口を切り開いた。そして「俺たちは鉄路に生きる」全国上映運動と物販運動を五〜七月第三波闘争の軸にすえ、全国で展開し、七・二〇全国鉄労働者集会の圧倒的大成功に見られる国鉄労働者の広範な決起、反撃のうねりをつくりだしてきた。まさに自ら血を流し闘いぬくことをとおし確実に展望を切り開いてきたと確認できる。

今日、国鉄分割・民営化攻撃との闘いは正念場中の正念場に立ち至っている。中曽根は「自民圧勝」を背景に国鉄関連法案を九月国会で強行成立させようとしている。しかし、「国鉄清算事業団」や「八五年度監査報告」の内容が分割・民営化方針の欺まん性、犯罪性を鮮明に突き出しているのをはじめ、「国鉄改革」の矛盾が一気に噴出してきている。自分だけ生き残ればよいと政府、国鉄当局に屈服し、動力千葉や国鉄破壊の尖兵となってきた反動四組合相互間の矛盾もまた激化し、今日、反動的主導権を争い分裂と対立をかくししようもなく露呈するにいたっている。まさに情勢は闘う側が団結し闘えば必ず勝利をかちとることができるところに来ている。決戦情勢は完全にならなっている。

三里塚二期強行着工阻止の闘いもまた決戦的状况に突入している。十月四日には東峰十字路裁判の判決が下されようとしている。自民党三百議席をもって「八六年度体制の開始」と豪語する中曽根は、戦後の「平和と民主主義」をたたきつぶすために国鉄労働運動を解体し、総評を解体すると同時に、二十一年間不屈に闘いぬき日本の反権力、反戦の砦となってきた三里塚闘争をたたきつぶそうとしている。六十数名が死においやられた国鉄職場はまさに生き地獄と化している。今こそ「反合・三里塚を闘う労働運動」の真価をかけて全力で反撃の決起しなければならぬ。第一に、日帝・中曽根の尖兵として「分割・民営化」を推進し、総評破壊や国鉄労働者の闘いを破壊することで延命せんとする動力車マルを追放・一掃し、動力大改革を今こそかちとること。第二に、分割・民営化のさらに大きな声をつくりだすために、映画「俺たちは鉄路の生きる」上映運動と物販運動をさらに地域・全国へ拡大させること。第三に、動力千葉支援基金会員一万人獲得へ全組合員で決起すること。第四に、「人材活用センター」および「広域異動」攻撃を始めとするあらゆる組織破壊攻撃と真向から対決することをおし組織の団結をいっそう打ち固め、国鉄法案粉碎、「六一・一一ダイ改」阻止、「六一・四・一」分割・民営化阻止へ向け、第三波のストライキをも展望しつつ全力決起し、全国鉄労働者の壮大な反撃の闘いを構築しなければならぬ。

われわれは、「九・七国鉄労働者全国交流会」の成功、「九・一四三里塚」総決起を起点に、分割・民営化阻止、国鉄労働運動解体攻撃粉碎、反動・中曽根内閣打倒へ全力で闘いぬくものである。

右宣言する。

一九八六年九月一日

国鉄千葉動力車労働組合
第十一回定期大会